

## 入学前教育の学習課題の分析 - レポートを書くための準備に必要な仮説形成力をはかる -

Analysis of learning task of college administration preparation study  
- Assessment of hypothesis formation power necessary for preparation to write a paper -

宮下 伊吉

Ikichi MIYASHITA

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻  
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University  
Email: imiyashita@st.gsis.kumamoto-u.ac.jp

あらまし：入学前教育におけるレポートを書くための準備に必要な学習技能を明らかにするために、  
ガニエの学習成果の分類と先行研究のレビューにもとづいて、学習課題の分析を行う。

キーワード：入学前教育、レポート作成、学習成果

### 1. はじめに

現在、社会人として働きながら e ラーニングによる大学院でインストラクショナルデザイン（ID）について学んでいる。IDは、教育・研修の学習効果と効率を高めるためのシステム的なアプローチにもとづく方法論である。その ID 理論の生みの親として著名なガニエの学習成果の 5 分類ならびに学びのプロセスを支援する 9 つの教授事象を、入学前教育の学習課題の分析に取り入れたい。

入学前教育は多くの大学で行われるようになっているが、FD活動における授業評価のような学生による評価・検証及び改善のしくみが不十分である<sup>(1)</sup>。そこで、ID理論に基づいて、入学前教育の学習課題の分析を試みたい。

大学が入学時の学生に最も求めている学習能力は、国語およびレポート作成のスキルである<sup>(2)</sup>。そこで本研究では、レポートを書かせる入学前教育に焦点を絞り、学習課題の分析を行う。

### 2. レポートを書く準備に必要な仮説形成力

入学前教育は、高校から大学への橋渡し（接続）の時期に行われている。この時期に高校までの勉強と大学での学びの違いは何かを理解しておくことは大切である。高校までは、学習指導要領にもとづいて学習すべき項目が体系化されており、問題と解答が必ず与えられる。一方大学では、問題も解答も自分で見つけなければならない。今までと勉強の仕方が 180 度変わることになり、学習に対する意識の転換が求められる。大学そして今後社会で必要となるのは、自分で問題を見つけ整理し、自分なりの意見を論理的にまとめる仮説形成力である。

レポートを書くための準備にその仮説形成力は不可欠である。レポートはいきなり書き始めるのではなく、どのような問題について自分はどう考えているのかを論理的に明らかにしていくトレーニングがレポートを書くための準備として必要である。

### 3. ガニエの学習成果の 5 分類

ガニエの学習成果の 5 分類とは、言語情報、知的技能、認知的方略、運動技能、態度である。これらは学習成果の到達度の測定方法が異なるだけでなく、到達を支援する最善の方法が異なるという ID の観点から学習目標の性質にもとづいて課題を分類したものである。そのうち、言語情報は与えられた情報を再び記述する力（宣言的知識）の習得、知的技能は約束事を学びそれを未知の例に適用する力（手続き的知識）の習得、認知的方略は自分の学習過程をより効果的にするための力（学習技能）の習得を指しており、これら三つは認知領域の学習成果とされている<sup>(3)</sup>。

レポートを書くための準備に必要な仮説形成力はこの認知領域の学習成果にあたると考える。レポートを書く上で必要な形式などのルールを覚えることは言語情報にあたり、覚えた形式・ルールにもとづいて収集すべき資料を確認することは知的技能にあたる。そして、その資料からどのようなことが言えるのかを複数の考え方の中から選ぶことができるようになることが認知的方略であると考える。ガニエによれば、認知的方略とは、学習者が注目・学習・記憶・思考する方法を選択したり、修正したりする内的過程である<sup>(4)</sup>。

したがってレポートを書くための準備に必要な仮説形成力をはかるには、学習者が注目・学習・記憶・思考する方法を選択したり、修正したりする機会を提供することが必要であると考える。

### 4. 先行研究のレビュー

#### 4.1 レポートの書き方にに関する文献より

レポートならびに論文や文章表現の書き方にに関する文献は多数存在する。そのうち、入学前教育の対象者と同様にはじめてレポートを書く者を対象とし、自分の意見を論理的にまとめるについて触れている文献を中心にレビューを行った<sup>(5) (6) (7) (8)</sup>。すると、次のような共通点を見つけることができた。

その共通点とは、問題（＝問い合わせ）を見つけ、その問題（＝問い合わせ）をできるだけ明確にしていくことである。たとえば、河野は、主要文献のテキスト批評を行うことで問題設定することを述べている<sup>(5)</sup>。また、井出・藤田は、収集した情報から大雑把な筋書きをつくることを述べている<sup>(6)</sup>。木下は、目標規定文で何を目標として書くのかを示すことを勧めている<sup>(7)</sup>。戸田山は、問い合わせの定式化とアウトラインをつくることを勧めている<sup>(8)</sup>。

#### 4.2 入学前教育関連の文献より

GeNi(国立情報学研究所学術コンテンツポータル)では、「入学前教育」を検索すると50件、「リメディアル」だと223件、「初年次教育」だと267件の論文があがってきた。「レポート作成」だけだと、445件にまでのぼるが、「入学前教育+レポート作成」では0件であった。そこで、入学前教育においてレポート作成に関連する文献に絞り、分析を行った。

向後・伊豆原ほかはeラーニングの形態であり、オンラインによる学生の授業評価では資料なしで始める構想マップと5段落で構成するというステップの役立ち度が高かった<sup>(9)</sup>。池内・風戸ほかはeラーニングではなくパラグラフライティングによって自分の高校を紹介する文章を書くもので、学習の進め方を2~3回以上読んでやっと理解できたものが半数以上にのぼっていた<sup>(10)</sup>。

入学前教育に関する文献では件数は少ないが、受講者アンケートをとっており、文章の構想の仕方や5段落構成、パラグラフライティングによるまとめかたなど参考になる点を見つけることができた。

#### 4.3 リメディアル教育、初年次教育関連の文献より

リメディアル教育に関する文献では、福岡の“学生たちは高校で受験のための小論文の指導は受けたことがあるが、情報を収集し、一定の期間をかけて長い文章を練り上げることはほとんど行っていないので、プロセスを重視したレポートの作成を行うことを試みた”という点と“文章を書く段階において、学習者に構成や推敲の作業を実行させるには、注意事項を知識として与えるだけでは不十分であると考え、学習者自身が参加し、体験する学習する活動を毎回必ず行うようにした”点が参考になった<sup>(11)</sup>。

また、同じ文献で紹介されている大島・池田ほかのワークブックは、大学生向けの日本語表現の教科書として使われており、構想を練ること、集めた情報から問い合わせの構成表を作成し、目標規定文を作り、アウトラインを組み立てることなど、わかりやすくまとめられている<sup>(12)</sup>。

それから、米澤はeラーニングによる図書館を中心としたレポート作成授業の中で、良いレポートを作成するために必要なこととして、調査力・構成力・文章力をそれぞれ高めるために授業でレポート作成法の教材を提示している。また、学習効果を達成するための学習行動も、レポートを書くための準備に

必要な学習成果を示しており、参考になりうる<sup>(13)</sup>。

#### 5. 今後の研究の方向性と課題

以上のように入学前教育の学習課題の分析より、レポートを書くための準備に必要な学習技能は、自分で問題を見つけ明確にしていく仮説形成力であるといえる。そして、その仮説形成力は、たとえば、構想を練ること、集めた情報から問い合わせの構成表を作成すること、目標規定文を作ること、アウトラインを組み立てることといった具体的な学習成果を明確にすることで測定可能になるものと考える。

現時点では、理論と先行研究にもとづく仮説であるため、仮説の検証が今後の課題である。そこで、レポートを作成する入学前教育の実施大学にご協力をお願いし、学習課題の調査・分析をWeb(moodle)上で行いたい。そして、さらに今後の発展的課題として、レポートを書くための準備に必要な仮説形成力をはかれる教材の開発をめざしていきたい。

#### 参考文献

- (1) Between219号：“つなぐ高校 大学「入学前教育は効果を上げ大学を評価する要因になっているか?”, 進研アド, 大阪, pp.61-63 (2006)
- (2) 小野博ほか：“日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育”, メディア教育開発センター, 東京, 1-6 (2005)
- (3) 鈴木克明(編著)：“詳説インストラクショナルデザイン：eラーニングファンダメンタル(パッケージ版テキスト)”, 特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソーシアム, 東京(2004)
- (4) ガニエ, ウェイジャー, ゴラス, ケラー(著), 鈴木克, 岩崎信(監訳)：“インストラクショナルデザインの原理”, 北大路書房, 京都(2007)
- (5) 河野哲也：“レポート・論文の書き方入門第3版”, 慶應義塾大学出版会, (1997)
- (6) 井出翁, 藤田節子：“レポート作成法—インターネット時代の情報の探し方—”, 日外アソシエーツ, 東京(2003)
- (7) 木下是雄：“理科系の作文技術”, 中公新書, (1981)
- (8) 戸田山和久：“論文の教室-レポートから卒論まで-”, NHKBOOKS, (2002)
- (9) 向後千春, 伊豆原久美子ほか：“eラーニングによる大学入学前教育「文章表現」の設計・実践とその評価”, 日本教育工学会研究報告集, (2006)
- (10) 池内健治, 風戸修子ほか：“入学前学習「日本語表現」の開発とその成果”, 産能短期大学紀要第37号, (2004)
- (11) 福岡寿美子：“リメディアル教育としての基礎演習における日本語表現—アカデミック・ジャパンーズの観点を中心に—”, 流通科学大学教育高度化推進センター紀要第3号, pp23-33, (2006)
- (12) 大島弥生・池田玲子ほか：“ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成”, ひつじ書房, (2005)
- (13) 米澤誠：“eラーニングでのレポート作成授業の実践と成果評価”, 東北大学高等教育開発推進センター紀要(2), pp237-243, (2007)